

## 阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域における草原景観改善の取り組みに関する研究

○三浦南 [東京農業大学] △麻生恵 [東京農業大学]

キーワード：阿蘇くじゅう国立公園、草原再生、眺望景観、観光

阿蘇くじゅう国立公園は周囲約 100km に及ぶ世界最大級のカルデラ地形を持ち、中央火口丘の活発な火山活動や裾野に広がる雄大な草原景観が見どころで、年間約 1900 万人の観光客が訪れる。阿蘇の広大な草原は、採草、放牧、野焼きなど地域の人々の営みや自然と人間との共生により引き継がれる文化遺産である。また、草原に隣接してスギやヒノキの人工林が存在し、樹木の生長に伴い、主要な展望地や登山道路、スカイラインから見る眺望景観に乱れが生じてしまっている箇所が多く見られる。

そこで本研究では、阿蘇を訪れる観光客が雄大な草原景観を体験できるよう展望地や登山道路、スカイラインからの眺望の質を改善し、来訪者が活用できるようにするため、主要な視点からの眺望景観を地理情報システム（以下：GIS）によって可視化し、地形と草原景観の把握を行う。加えて、国立公園の展望の魅力を高め、適切な管理を行うため、情報を活用し、阿蘇の景観体験をより魅力的にするための提案を行うものである。

## 大学におけるボランティアツアー企画とその効果

—東北復興プログラムに着目して—

○仁藤喜久子 [玉川大学大学院生]

キーワード：大学生 宮城県 ボランティア活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年半が経過した。復旧が進んでいるが、未だ津波で被災した地域では、産業の開発や復興に向けた作業がまだ多く残っている。玉川大学では2012年9月3～5日（2泊3日）の日程で「東北復興ボランティアプログラム」ツアーを企画した。そこで、ツアーに参加した大学生がどのような動機から参加をしたのか、また、ボランティアプログラムに参加しての感想を知ることがを目的に調査を実施した。【対象】参加学生30名（男性16名/女性14名）【方法】質問紙調査。内容は①ボランティア経験の有無、②参加目的、③参加の感想、④次回の参加、⑤今後のボランティア活動について。【結果】回答数20名。①参加した37%がボランティア経験者、63%は未経験者であった。②参加目的は被災地の視察や困っている人の手助けをしたかった等であった。③参加後の感想は「非常に満足した」が100%であった。④またこのような企画を開催したらの問いには「また参加したい」と95%が回答した。【考察】東北復興プログラムに参加した大学生は「満足度が高く」またボランティアに参加したいと意欲をみせていることから、大学がツアーを企画することは大変意義深いことであることが明らかになった。